

# Hara Museum of Contemporary Art

## 加藤泉-LIKE A ROLLING SNOWBALL 展のご案内

ハラ ミュージアム アーク 2019年7月13日 [土] - 2020年1月13日 [月・祝]

原美術館 2019年8月10日 [土] - 2020年1月13日 [月・祝]

### 【展覧会概要】

原美術館（東京都品川区）と別館ハラ ミュージアム アーク（群馬県渋川市）において、「加藤泉-LIKE A ROLLING SNOWBALL」展を開催します。

原始美術を思わせるミステリアスで力強い人物表現を特徴とする加藤泉は、1990年代半ばより絵画作品を発表、2000年代に入ると木彫も手がけ、2007年ヴェネチアビエンナーレ国際美術展への招聘をきっかけに国際的な評価を獲得し、日本・アジア・欧米とその活動の舞台を広げてきました。

近年ではソフトビニール、石、ファブリックなど多様な素材を用いたダイナミックなインスタレーションを展開する一方で、新たに版画制作にも取り組むなど、その意欲的な創作活動が多くの注目を集めています。

東京の美術館としては初の大規模個展となる原美術館では、新作の絵画、彫刻作品69点を、元々は個人邸宅として建てられた独特の建築空間と対話するように展示します。

また、別館のハラ ミュージアム アークでは、作家秘蔵の未発表作品も交え、代表作を中心に145点にのぼる圧倒的なスケールの作品群でこれまでの活動を振り返ります。

ときは令和元年一時代の大きな節目を迎えたこの時期に、東京と群馬、全く異なる展示空間を持つ両館で、加藤泉の初期から最新作までを同時期に展覧し、その全貌に迫る本展は、平成を駆け抜けてきた加藤泉の表現世界を改めて検証し、その令和での展開を占う好機となることでしょう。

### 【展覧会の見どころ】

■ハラ ミュージアム アークのみどころ 初期絵画作品から近作まで、約25年の創造の軌跡をたどる初期作品から近作まで、未発表作品を含む145点によって、作家の四半世紀にわたる活動を網羅的に紹介します。加藤の作品に登場する人のような形は、1990年代半ばの彼の絵画作品に既に見ることができます。初期から現在に至る代表作がハラ ミュージアム アークの開放的でシンメトリーな空間で一堂に会することによって、このモチーフが、素材と技法の幅を広げながらどのように展開されてきたのか、その変奏の過程をたどることができるでしょう。

また、高さ13メートルのメインギャラリーでは、代表的な大型の木彫作品を中心に、ソフトビニールや石を用いた大小様々な彫刻作品の共演が予定されています。

■原美術館のみどころ 加藤泉の現在、最新作69点を展覧し、今後を占う

吹き抜けのギャラリー1では、加藤泉の新たな試みの一つである、ドローイング作品から発生した大型ファブリックを用いたインスタレーションがお目見えします。ほか全館で絵画や彫刻など最新作69点を展覧、ストローク跡も生々しい加藤による表現世界の現在が出現します。旧個人邸宅独特の親密な距離感での鑑賞体験は、加藤作品の新たな一面を発見する契機になるかもしれません。

しつらえにこだわりを見せる加藤ならではの展示ケースを使った空間構成にもご注目ください。

是非、両館合わせてご鑑賞ください。

# Hara Museum of Contemporary Art

加藤泉 (かとう・いずみ)

1969年島根県生まれ。東京と香港を拠点に活動。1992年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。「リトルボーイ：爆発する日本のサブカルチャー・アート」ジャパン・ソサエティー・ギャラリー（ニューヨーク、米国、2005年）、第52回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展「Think with the Senses—Feel with the Mind. Art in the Present Tense」（キュレーター：ロバート・ストーリー / イタリア館、ヴェネチア、イタリア、2007年）を契機に、国際舞台でも活躍。

主な個展に、彫刻の森美術館（神奈川、2010年）鹿児島県霧島アートの森（2012年）、Red Brick Art Museum（北京、中国、2018年）、Fundación Casa Wabi（プエルトエスコンディド、メキシコ、2019年）。

主なグループ展に「内臓感覚—遠くて近い生ノ声」金沢21世紀美術館（2013年）、「STANCE or DISTANCE? わたしと世界をつなぐ「距離」」熊本市現代美術館（2015年）、「Japanorama. A new vision on art since 1970」ポンピドゥ・センター・メッス（メッス、フランス、2017年）。主なパブリックプロジェクトとして大館（タイクン、香港、2018年-2020年）、丸の内ストリートギャラリー（丸の内仲通り、東京、2018年-2021年）など。

■関連イベント \* 詳細が決まり次第、当館ウェブサイトに掲載します。

□ライブ THE TETORAPOTZ（スペシャルゲスト：スナッチ）

8月24日（土）ハラ ミュージアム アーク

□対談 原田マハ×加藤泉

10月27日（日）ハラ ミュージアム アーク

□バスツアー ハラ ミュージアム アークでのイベント開催時などに複数回、バスツアーを催行します。

□講演会 Meet the Artist: 加藤泉

11月16日（土）原美術館

■会期中、両館ザ・ミュージアムショップ、およびハラ ミュージアム アーク SHOP@CAFEにて、本展カタログや加藤泉による本展スペシャルリトグラフ、新シリーズのソフトビニール人形など、本展限定商品を販売します。

□展覧会カタログ 図版：出品作品を網羅（全カラー）、両会場のインスタレーションビュー、ビブリオグラフィ、バイオグラフィ入り。

テキスト：原田マハ、青野和子

対談：ロバート ストー×加藤泉、インタビュー（栞志超：中国美術雑誌「芸術世界」2018年3月号記事の再編集）等掲載

全160ページ（予定）

和・英・テキストのみ中国語訳付

価格：3,800円（税別）

発行：青幻舎

11月発売予定

□加藤泉：本展限定スペシャルリトグラフ \* 完売いたしました。

サイズ：44.5 x 35 cm

エディション：300

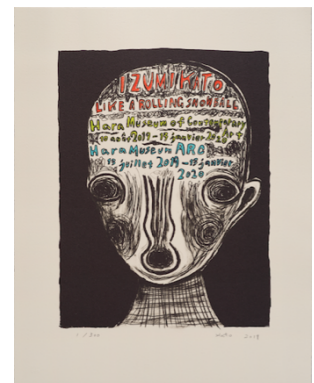
価格：58,000円（税別、200枚限定販売）

制作：Idem Paris

限定スペシャルリトグラフ

Photo : Kei Okano

© 2019 Izumi Kato



□原美術館、ハラミュージアムアーク ソフトビニールフィギュア各館限定カラー

完売となった両館の男の子バージョン（2011年発売）の再発売を行い、さらに、新シリーズの女の子バージョン（ハラビカラー、ARCカラー）を新発売。

価格：6,500円（税別）

制作：リンデン

# Hara Museum of Contemporary Art

【広報用図版】



1



2



3



4



5

1. 「無題」カンヴァスに油彩 103.5 x 73 cm 2019年 Photo: Kei Okano ©2019 Izumi Kato

2 「無題」カンヴァスに油彩 228 x 130.5 cm 2019年 Photo: Kei Okano ©2019 Izumi Kato

3. 「無題」布、皮、パステル、アクリル絵具、刺繍、石、リトグラフ、チェーン サイズ可変 510 x 120 cm (布部分) 2018年 Photo: Yusuke Sato ©2018 Izumi Kato

4. 「無題」木、油彩、アクリル絵具、石 185 x 167 x 110 cm 2008年 原美術館蔵 Photo: Ikuhiro Watanabe ©2008 Izumi Kato

5. 「無題」木、アクリル絵具、木炭 205 x 56 x 52 cm 2004年 高橋龍太郎コレクション蔵 Photo: Tsuyoshi Saito ©2004 Izumi Kato

1,2=原美術館に展示予定 3,4,5=ハラ ミュージアム アークに展示予定

# Hara Museum of Contemporary Art

## 【開催要項】

展覧会名 「加藤泉-LIKE A ROLLING SNOWBALL」  
(欧文表記 IZUMI KATO-LIKE A ROLLING SNOWBALL)  
主催 原美術館  
特別協力 ペロタン

ハラ ミュージアム アーク 会期 2019年7月13日 [土] - 2020年1月13日 [月・祝]  
原美術館 会期 2019年8月10日 [土] - 2020年1月13日 [月・祝]

## ハラ ミュージアム アーク

群馬県渋川市金井 2855-1 〒377-0027 Tel 0279-24-6585 E-mail arc@haramuseum.or.jp

休館日 木曜日(8月中は無休、2020年1月2日を除く)、2020年1月1日

開館時間 9:30am-4:30pm (入館は4:00まで)

入館料 一般1,100円、大高生700円、小中生500円、70歳以上550円/原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は群馬県内の小中学生の入館無料

ぐーちょきパスポートのご提示により5名様まで入館料各200円割引

20名様以上団体割引/学校団体は特別料金規定あり

■伊香保グリーン牧場とのセット券 一般1,800円、大高生1,500円、中学生1,400円、小学生800円

交通案内 JR 上越線「渋川駅」より(上越・北陸新幹線利用の場合は「高崎駅」で上越/吾妻線に乗り換え)伊香保温泉行きバスにて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩5分。「渋川駅」よりタクシーで約10分。

車の場合、関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より8km、約15分。

無料駐車場一般50台(内5台は車椅子対応)大型バス2台あり(館内・駐車場ともバリアフリー)

## 原美術館

東京都品川区北品川 4-7-25 〒140-0001 Tel 03-3445-0651 E-mail info@haramuseum.or.jp

休館日 月曜日(2019年8月12日、9月16日、23日、10月14日、11月4日、2020年1月13日を除く)、2019年8月13日、9月17日、24日、10月15日、11月5日、年末年始

開館時間 11:00am-5:00pm (水曜は8:00pmまで/入館は閉館時刻の30分前まで)

入館料 一般1,100円、大高生700円、小中生500円、70歳以上550円/原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料/20名以上の団体は1人100円引

交通案内 JR「品川駅」高輪口より徒歩15分/タクシー5分/都営バス「反96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩3分/京急線「北品川駅」より徒歩8分

ウェブサイト <https://www.haramuseum.or.jp>

加藤泉-LIKE A ROLLING SNOWBALL

担当学芸員： 青野、尾形

取材・図版提供など広報に関するお問い合わせ 原美術館広報 市川 E-mail: hmpr@haramuseum.or.jp

原美術館に関するお問合せ

原美術館 野田 東京都品川区北品川 4-7-25 E-mail: press@haramuseum.jp Tel: 03-3280-0679 Fax: 03-5791-7630

Twitter: @haramuseum Instagram: @hara\_museum

ハラ ミュージアム アークに関するお問合せ

ハラ ミュージアム アーク 山川 群馬県渋川市金井 2855-1 E-mail: press@haramuseum.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449

Twitter: @HaraMuseumARC